

めぐみイエス・キリスト教会

2021年1月10日(日)第二主日新年礼拝
週報「通算第539号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌40「ガリラヤの風かおる丘で」 p. 57

【交読文】 No.3 詩篇第16篇 p. 880

【賛美Ⅱ】 新聖歌266「罪・咎を赦され」 p. 418

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美19「共に住み、共に生き」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章19節～22節(2017新約p. 228)

【礼拝説教】 《2021年標題聖句から》

「平安があなたがたにあるように」

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書20章19節～22節】

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

●ポイント1. 「週の初めの日」に、園の墓で起こった出来事とは？

※マタイの福音書28章11節～15節「ローマ兵4人の番兵」(新約p.64)

28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

28:12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

28:15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

●ポイント2. 主イエスが言われる「平安」とは？

※ヨハネの福音書14章27節「私の平安」 (新約p.215)

14:27「私はあなたがたに平安を残します。私の平安を与えます。私は、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。(恐れてはなりません。)」

●ポイント3. 「聖霊を受けなさい」とはどのような意味か？

※ヨハネの福音書14章16節～17節「もう一人の助け主」(新約p.214)

14:16「私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その助け主がいつまでも、あなたがたと共にいるようにして下さいます。

14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたと共におられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

◎先週のメッセージの概要【エルサレムのシメオン】

《主イエスは、紀元前6年頃、ミカが預言したとおりベツレヘムにて生まれました。母マリアの清めの期間七日間を過ごす、神殿において幼子イエスに割礼を施す為に、両親はエルサレムに向かいます。そしてヨセフとマリアが幼子イエスを連れて宮に入った時、一人の老人、シメオンが側にやって来ました。シメオンは、正しい、敬虔な人であったと書かれています。「正しい」とは、主の律法を重んじると言う意味で、「敬虔な人」とは、神様を恐れへりくだった者と言う意味です。また恵みの中に生かされている事を知っている者のことです。そして、イスラエルが慰められるのを待ち望んでおり、何と聖霊が彼の上におられたと言うのです。

すべてにおいて順風満帆で、健康で何一つ病気をしたことが無い者に、「主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない。」と、神様は言われるでしょうか。もしそうだとしたら、人は傲慢になってしまいます。シメオンは、試練や病気や様々な労苦の中に、生かされて来たのです。しかし彼は、神様の約束と、その言葉を信じて、ここまで歩んで来ました。

詩篇119篇は、『あなたのみ言葉は私の足のともしび私の道の光です。私は誓います。あなたの義の定めを守ることを。私はひどく苦しんでいます。主よみ言葉のとおり私を生かして下さい。』と謳っています。この告白こそ、シメオン自身の告白ではないでしょうか。

さて、シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、まさにその時、ヨセフとマリアが幼子を連れて入って来ました。シメオンは幼子を腕に抱きます。「主よ。今こそあなたは、お言葉どおり、しもべを安らかに去らせて下さいます。私の目があなたの御救いを見たからです。あなたが万民の前に備えられた救いを。異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」そして母マリアについて預言します。この為に、シメオンはここまで生かされたのです。この後、彼がどうなったのかは聖書には書かれてはいません。しかし私は思うのです。この日のうちに、彼は安らかに召されたと。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年1月17日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、1月13日(水)各家庭において行ないます。